

被爆死した家族の思い出と共に

柱時計

寄贈／筒井昭夫

爆心地から約 300m 材木町(現在の中島町)

筒井勝美さんは時計店を開業した際、「店の看板に」とこの柱時計を購入した。やがて召集された勝美さんは、大事な時計を店の土間に埋めて戦地に赴いた。

そして8月6日。爆心から至近距離だった店は壊滅し、勝美さんの妻子、義父の3人が亡くなった。戦後、復員した勝美さんは時計を掘り出し、修理された時計は再び時を告げ始めた。かつて家族と過ごした大切な日々を慈しむかのように、勝美さんは毎日時計をなでるように掃除をしていた。

